

メディア情報学実験・メディア分析 課題レポート

1510151 柳 裕太

2017 年 11 月 5 日

1 序論・仮説

今回の実験では、”きよしのズンドコ節”という曲を扱った (PV16)。この PV では昭和の歌謡曲のエッセンスを入れたことによって、筆者のような 20 代前半にとっては個人的にはかなり印象深い PV であった。よって今回は、以下の仮説を立ててから解析に臨むことにした。

- PV を構成する任意の要素が洗練されていなくとも、好感度には影響しない
- 映像・メロディに迫力がなくとも、好感度には影響しない
- 聞き取りやすいメロディ・歌詞は好感度上昇に寄与する

2 調査結果分析

2.1 a-sum 分析 (調査全体)

2.1.1 主成分抜粋

2.1.2 重回帰式による検証

2.1.3 目的関数に寄与する主成分の選定

2.1.4 重回帰式による再検証

2.1.5 主成分を構成する質問・主成分命名

2.1.6 グループの類推

2.2 PV16 分析 (きよしのズンドコ節)

2.2.1 主成分抜粋

主成分抜粋においては、累積寄与率と固有値の 2 つのデータを基準に足切りを行った。なお、PC11 以降は省略している。

講義内では、以下の条件で足切りすることが推奨されていた。

- 累積寄与率が 80% 以下の主成分
- 固有値が 1 以上の主成分

前者であれば PC8、後者であれば PC4 までとなるが、両者のデータ共に値が著しく変化する境界があまり明瞭ではない。そこで、前者の広い基準を採用し、解析後の P 値等によって解析対象から外すことにした。

表 1 主成分毎の累積寄与率と固有値

主成分番号	累積寄与率 (%)	固有値
PC1	38.38390791	7.29294250348674
PC2	48.55050945	1.93165429251404
PC3	55.79636735	1.37671299972187
PC4	61.89941496	1.15957904665
PC5	67.01570809	0.972095695622575
PC6	71.71468219	0.892805078337444
PC7	75.76539908	0.769636208492113
PC8	79.51202683	0.711859273699518
PC9	82.66178688	0.598454408935556
PC10	85.20054444	0.482363935634707

2.2.2 重回帰式による検証

PC1 から PC8 まで全ての主成分を対象に重回帰分析を行った。その結果は以下の通りである。

表 2 重回帰分析結果: 各主成分の係数

主成分番号	偏回帰係数	標準誤差	t 値	P 値	標準化偏回帰係数	トレランス
PC1	-0.282	0.0119	-23.6	2.09e-64	-0.765	1
PC2	-0.171	0.0232	-7.38	2.66e-12	-0.239	1
PC3	-0.197	0.0275	-7.15	1.05e-11	-0.232	1
PC4	-0.0489	0.0300	-1.63	0.104	-0.0529	1
PC5	0.143	0.0327	4.39	1.72e-05	0.142	1
PC6	0.105	0.0341	3.07	0.00242	0.0994	1
PC7	-0.156	0.0368	-4.24	3.26e-05	-0.137	1
PC8	-0.00994	0.0382	-0.260	0.795	-0.00843	1
定数項	3.15	0.0323	97.7	2.64e-195	NA	NA

表 3 重回帰分析結果: 重相関係数・自由度調整済重相関係数

重相関係数	重相関係数の 2 乗	自由度調整済重相関係数の 2 乗
0.864590803140089	0.747517256874424	0.739101165436905

これを重回帰式にすると、以下の通りとなった。なお、目的変数は PV_{like} とした。

$$\begin{aligned}
 PV_{like} = & -0.282PC_1 - 0.171PC_2 - 0.197PC_3 - 0.0489PC_4 \\
 & + 0.143PC_5 + 0.105PC_6 - 0.156PC_7 - 0.00994PC_8 + 3.15
 \end{aligned} \tag{1}$$

この目的変数 PV_{like} に対して PC_1 から PC_8 までを説明変数として重回帰分析を行った結果、

表 4 重回帰分析結果: 分散分析

項目	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値
回帰	184	8	23.0	88.8	2.36e-67
残差	62.2	240	0.259	NA	NA
全体	246	248	0.993	NA	NA

決定係数は $R^2 = .75$ であり、0.1% 水準で有意であった。 $(F(8, 240) = 88.8)$

2.2.3 目的関数に寄与する主成分の選定

主成分の選定において着目したのが P 値の列である。講義内では $p < 0.005$ が望ましいとされた。今回の解析では、表 2 の P 値の列によると、PC4, PC8 がこの基準を満たしていないため、除外して重回帰分析を再度行うことが適当であると判断した。

2.2.4 重回帰式による再検証

2.2.3 より、PC4, PC8 を除外した状態でもう一度重回帰分析を行った。その結果得られたデータは次の表 5 の通りである。

表 5 重回帰分析結果: 各種成分の係数

主成分番号	偏回帰係数	標準誤差	t 値	P 値	標準化偏回帰係数	トレランス
PC1	-0.282	0.0120	-23.5	1.64E-64	-0.765	1
PC2	-0.171	0.0232	-7.36	2.79E-12	-0.240	1
PC3	-0.197	0.0275	-7.14	1.10E-11	-0.232	1
PC5	0.143	0.0328	4.38	1.77E-05	0.142	1
PC6	0.105	0.0342	3.06	0.00245	0.0994	1
PC7	-0.156	0.0368	-4.23	3.33E-05	-0.137	1
定数項	3.15	0.0323	97.6	2.45E-196	NA	NA

表 6 重回帰分析結果: 重相関係数・自由度調整済重相関係数

重相関係数	重相関係数の 2 乗	自由度調整済重相関係数の 2 乗
0.862928027094451	0.744644779945121	0.738313658786736

表 7 重回帰分析結果: 分散分析

項目	平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値
回帰	183	6	30.6	118	7.69e-69
残差	62.9	242	0.260	NA	NA
全体	246	248	0.993	NA	NA

これを重回帰式にすると、以下の式 2 の通りとなった。

$$PV_{like} = -0.282PC_1 - 0.171PC_2 - 0.197PC_3 - \\ + 0.143PC_5 + 0.105PC_6 - 0.156PC_7 + 3.15 \quad (2)$$

この分析結果をまとめると、目的変数 PV_{like} に対して $PC_1, PC_2, PC_3, PC_5, PC_6, PC_7$ までを説明変数として重回帰分析を行った結果、決定係数は $R^2 = .74$ であり、0.1% 水準で有意であった。 $(F(6, 242) = 118)$

2.2.5 主成分を構成する質問・主成分命名

2.2.6 グループの類推

3 結論

4 考察